

フロリダ大学留学体験記

生物資源科学部農林生産学科

石川翔一朗

私は2026年1月から交換留学生としてフロリダ大学で生活を送っています。このレポート内では、留学を通して経験したことや私が考えたことを記録していこうと思います。

私は本来2025年の8月から2026年の5月まで滞在する予定でしたが、トランプ政権下の方針でJ-1ビザの手続きが止まってしまったことにより、1学期遅らせての2026年1月から12月までの滞在ということになりました。

入寮ができるのは1月10日からでしたが、アメリカでの生活に慣れるために二週間ほど早く渡米し、オーランドやゲインズビルで宿泊先を見つけて過ごしていました。その中でやはり感じたのは、現地で話される英語のスピードの速さ。出国前から様々な教材を利用してリスニング力を高めていたつもりでしたが、話し言葉ならではの言い回しやリンキング、さらに訛りなどもあって半分も聞き取れませんでした。日本にいるときから英語話者と会話する機会をできるだけ作ることでこのギャップは埋まっていくのかなというふうに感じました。

また、アメリカで生活を送る中では物価の高さにも驚かされました。Evianのミネラルウォーターが一本3ドル（500円ほど）で、マクドナルドのハンバーガーも単品で1000円は超えてきます。ちゃんと食事を取りながら生活費を抑えるには自炊が必須になってくると感じました。

10日のお昼ごろにHonors villageという寮に入りました（下に掲載している写真の左上がその寮です）。Honors villageは最近できた新しい寮で、各部屋はオートロック、各階にキッチン・洗濯機があり、1階には音楽室もあるそうです。夕方ごろにルームメイトと会えたので、ルームメイトの友達と一緒に夜ご飯を食べに行きました。私のように春学期から入寮するという人は少なく、すでにコミュニティーが形成されている中ではありましたが、みんなとてもフレンドリーに接してくれます。人の温かさという点ではフロリダ大学はとても素晴らしい環境だというように感じました。

授業が始まってからは、午前中に授業を受けて午後は寮で勉強、夕方は何かしらのイベントに参加する、という生活を続けています。学期が始まる最初の月はいろんな部活・サークルがイベントを開催しているので、積極的に参加するようにしています。ただ、留学生や日本人向けでないようなイベントに参加した時は、英語のスピードについていけず死にそうに

なりました。留学に来てから自身の英語力のなさを痛感しています。こちらに来てからも日々英語の勉強は続けていかなければいけませんね。

